

新開さんの「今選挙の総括」について

大谷美芳(2021.12.01)

野党共闘は、自公政権に対して、「争点を見いだせず一定の変化を求める層は維新……へと向かった。」どう人民を結集しどう対立を全面化していくか。

一つは、野党共闘の「6項目・20 課題の共通政策」に基づいて、人民闘争を進める。「自公……に対抗するネットワーク」「ミュニシパリズム的発想と組織」。大きく言えば陣地戦。人民闘争に依拠できなかった民主党政権の総括からも、これは納得です。

(1)「新しい資本主義」に対して なぜ人民民主主義なのか

なぜ社会主義ではないのか

もう一つが、「共通政策」は「課題の根底に横たわる『制度=構造』の改革への建設的提言がない」という総括。今選挙の「焦点」は「際限なく貧富の格差を拡大する資本主義」であった(日本資本主義は世界で最も成長が停滞し産業が空洞化し腐朽的寄生的で行き詰っている)。それに対して、「共通政策」は第3項目で「格差と貧困を是正」ですが、それには「ネッコにある労働者派遣法-非正規雇用の原則禁止」がないという総括。

非正規雇用の廃止は、資本主義の賃金奴隷制(これが「制度=構造」)の廃止ではなく、資本主義に対する人民(ほとんどはプロレタリア階級)の統制=人民民主主義です。

人民の大衆闘争の要求であれば分かる(非正規雇用の廃止に行き着く)が、「共通政策」は「最大公約数」で、「それ以上」は、「各政党の役割」というのでは納得がいきません。

10・17 集会「基調」も、「新たな政治勢力」の結集は、「どのような社会を創るか」ではなく、「問題解決型の行動綱領」となっていました。「新たな政治勢力」は、当面は多様な立場の新左翼系の連合でしょう(大きく言えばプロレタリア階級独裁は多党制)。なぜ人民民主主義(格差と貧困の問題では非正規雇用の廃止)に止まるのでしょうか。

「新しい資本主義」(そんなものはなく新自由主義=金融資本主義で終わり)に対しては、「新しい社会主義」ではないでしょうか。ソ連と中国を総括すれば「労働者階級が自主的大衆的に管理する」、環境破壊を総括すれば「人間が自然と共生する」など。そういう「新しい社会主義」が大衆闘争=人民民主主義を主導する。これが必要なのではないのでしょうか。

(2)「立憲共産党」という批判

日米安保と対中国・国防論に反対する国際主義を準備

日米同盟基軸と日米安保反対という矛盾を突き、立憲民主党を共産党との共闘で批判する。効き目があり、立憲民主党は屈服に動いている。核心は、アメリカに追従し依存した、対中国・帝国主義的覇権闘争における祖国防衛主義。この問題の総括がありません(「米中対立とその中で日本の立ち位置」が問われるという指摘に終わっている)。

「世界の人びとと連帯してナショナリズムの台頭と戦争の危機に立ち向かう」(10・17 集会「基調」)。ベトナム反戦闘争はベトナム民族解放闘争に対する支持と連帯でした。20 世紀の国際主

義の基礎は、民族解放(社会主義への前進は破綻)でした。21世紀、人民は何を基礎に国際的に連帯していくのでしょうか。それは「新しい社会主義」でしょう。

米日西欧と中ロ、両方に対する反帝・反覇権・反戦の闘争の中で、

①20世紀を世界史的に総括する。中国で革命がブルジョア革命に終わり社会主義革命は破綻した。アジアでは官僚制国家資本主義と開発独裁で後発の資本主義が発展した。資本主義が世界化し(グローバリズム)、対応して米欧日の先発資本主義が金融化した(新自由主義)。

②21世紀の資本主義と帝国主義を批判する。覇権闘争と戦争、地球の自然環境の破壊、格差拡大と貧困蓄積、民主主義破壊と国家的強権など、人類は大きな危機に直面している。こういう総括と批判を通して、社会主義と国際主義を新しく打ち立てていくでしょう。 (おわり)